

出版情報

書名・件名	厚生白書(昭和59年版)
編集者・監修者	厚生省

厚生白書の刊行にあたって

昭和59年版厚生白書をここに公表いたします。

我が国は、今や世界一の長寿国となり、かつて人生50年といわれたものが、人生80年の時代を迎えております。人生80年時代の到来は、戦後国民の不断の努力の成果であり、我が国経済社会の発展の象徴であります。この成果を今後十分に活かしていくことこそ、21世紀の豊かな国民生活、活力あふれる社会を築いていくための大きな「鍵」となるものであります。

長い人生を健康で生き生きと暮らせる——これは福祉社会の基本条件です。このため、社会保障は、国民生活の基盤を支えるものとして、長期的に有効で安定した機能を果たしていかなければなりません。また、必要とされる保健福祉サービスを適時適切に提供していくことは行政の責務であります。しかしながら、こうした福祉社会の建設は、行政ひとりの手でなし得るものではありません。家庭や地域社会、さらには職場の中でお互いが助け合い、また、喜びや悲しみを分かち合うことによって、国民の多くが健康で積極的に福祉の担い手の側にまわる社会を形成していかなければなりません。

今、人生80年時代にふさわしい社会システムの構築が求められております。私は、民間の自発的な創意や工夫を最大限に活かし、これと

行政施策をうまく調和させて、生き生きとした活力に満ちた社会をつくっていきたいと考えて、国民健康会議を発足させました。

今回の白書は「人生80年時代の生活と健康を考える」と題して、人生80年時代の到来を踏まえた厚生行政の展開について記述しております。これからの厚生行政について、本書が広く皆様の御理解を得るための素材となることができれば幸いと存じます。

昭和59年10月

編集者・監修者厚生大臣 恒三 渡部